

10月30日 原子力防災訓練を実施

緊迫した訓練をくり返し
いかなる事態にも備える

10月30日、女川原子力発電所をはじめ、仙台市にある本店や宮城支店、東京支社等が参加し「平成30年度原子力防災訓練」を実施しました。

今回の訓練は、宮城県内陸部で地震が発生し、その後、機器故障により「原子炉格納容器内での冷却水漏えい」や「原子炉停止機能の故障」、「外部電源を含むすべての交流電源の喪失」などの事象が次々に発生する想定で行いました。

今回の訓練を通じて、複数の事象が重なり発生した場合でも、社内の情報共有や社外への情報発信、設備や機能の復旧対応が迅速かつ適切に実施できることを確認しました。

当社では、今後とも様々な事態を想定した訓練を繰り返し実施し、原子力発電所の安全性をより一層高める取り組みを継続してまいります。



迅速・的確な指示・情報伝達を行う発電所対策本部

女川原子力発電所1号機の廃止を決定

10月25日、当社は、女川原子力発電所1号機を廃止することを決定しました。当社は、原子力に限らず、発電設備に関しては、安全確保を大前提に、安定供給、経済性、環境適合の観点から総合的に評価し、将来を見据えて、運転を継続するか廃止にするのかなどについても、常々検討を行っています。

現在、女川2号機の新規制基準への適合性審査が進捗しており、新たな安全対策設備の設置を進めていますが、女川1号機において、今後、女川2号機と同様の設備の追加設置を検討した場合、必要なスペースが不足しており、同等の安全性向上対策を行うための技術的な制約が大きいと評価しました。

こうした技術的な評価に加えて、発電機の出力規模や再稼働した場合の運転年数などを総合的に勘案した結果、女川1号機を廃止することを決定しました。

女川1号機は、当社として初めて手掛けた原子力発電所であり、1968年に建設地点として計画を公表して以降、地元の皆さまをはじめとする多くの皆さまに支えられながら、当社における電力の安定供給の一翼を担ってきました。

建設計画の公表から今日に至るまで、半世紀もの長きにわたり、多大なご尽力を賜りました関係者の皆さま、そしてご理解とご協力をいただきました地域の皆さまに、深く感謝を申し上げます。

今後、女川1号機については、安全確保を最優先に廃止措置に取り組むとともに、地域の皆さまへ適切な情報提供を行ってまいります。

一方で、再稼働を目指す女川2号機などに経営資源を投入し、新規制基準への適合性とどまらず、さらなる安全レベルの向上に向けた取り組みを着実に進めるとともに、地域の皆さまからのご理解をいただきながら、早期の再稼働に向けて全力で取り組んでまいります。

ホームページで「廃止措置に関する情報」をお知らせしています。
東北電力ホームページ>原子力・環境・エネルギー>原子力情報>廃止措置に関する情報
<http://www.tohoku-epco.co.jp/electr/genshi/safety/haishi/index.html>

おでかけ暦 1月 2月 3月

※日時・会場等はすべて予定です。下記指定のお問い合わせ以外、詳細は各市町村にお問い合わせください。

女川町 やっぱり女川ハマテラス祭り 日時:1月中旬、2月中旬、3月中旬 会場:ハマテラス 女川町復興祭2019 日時:3月23日(土) 前日祭「女川復興祭」 3月24日(日) 復興祭 会場:女川駅前商業エリア	東松島市 奥松島焼がき施設 日時:10月20日(土)~2月中旬 会場:東松島市宮戸字川原5-1 奥松島遊覧船案内所 TEL0225-88-3997 野蒜海岸初日の出 日時:1月1日(火・祝) 6:30~ 会場:野蒜海岸(鳴瀬川河口付近)
石巻市 サン・ファン イルミネーションツリー 2018 日時:11月9日(金)~1月6日(日) 会場:サン・ファン館 おめつき 日時:1月24日(木) 10:30~15:00 会場:雄勝名振地区 (秋葉神社・名振コミュニティセンターなど)	奥松島岨岨溪遊覧船 初日の出クルーズ 日時:1月1日(火・祝) 6:30~8:00 (集合時間/6:10) 会場:東松島市宮戸字川原5-1 奥松島公社 TEL0225-86-1511
ポンパルいしのまき 日時:2月24日(日) 11:00~22:00 会場:石巻市内各所 マンガッタン感謝祭2019 日時:3月23日(土)~24日(日) 会場:石ノ森美術館および中瀬公園	涌谷町 龍岳・白山祭 日時:1月27日(日) 14:00~ 会場:龍岳山龍峯寺
登米市 石越どんと祭 冬の花火大会 日時:1月14日(月・祝) 会場:登米市石越総合運動公園 佐沼どんと祭 裸参り 日時:1月14日(月・祝) 会場:登米市迫・津島神社、羽黒神社	美里町 第46回こごたどんと祭 日時:1月14日(月・祝) 会場:山神社 すっぽこスタンプキャンペーン 日時:11月1日(木)~2月28日(木) 会場:町内キャンペーン参加店舗
米川の水かぶり (ユネスコ無形文化遺産) 日時:2月2日(土) 会場:登米市東和・米川地区 (大慈寺山門広場)	南三陸町 第86回寒鰯まつり福興市 日時:1月20日(日) 9:00~13:30 会場:志津川仮設魚市場特設会場 第87回牡蠣まつり福興市 日時:2月24日(日) 9:00~13:30 会場:志津川仮設魚市場特設会場 第88回牡蠣・わかめまつり福興市 日時:3月24日(日) 9:00~13:30 会場:志津川仮設魚市場特設会場
東北風土マラソン& フェスティバル2019 日時:3月23日(土)~24日(日) 会場:長沼フットピア公園	

原子力なるほどのクイズ

ご応募いただいた方の中から、
抽選で **20名様** に、
「**女川町の特産品
詰め合わせ**」を
差し上げます。



原子力発電は〇〇〇ロード電源の一つです。〇〇〇に入る言葉は?
クイズ ①ベース ②ギター ③ドラム
※中面にヒントがあります。

■応募方法
ハガキに、右記の必要事項をご記入の上、ご応募ください。

■応募締切
2019年1月21日(月) 必着
※当選発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの応募ハガキで知り得たお客様の個人情報は当選者への商品の発送のみに使用します。また、いただいた意見については、今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。

62円 9180000005

仙台市青葉区
中央四丁目6番1号
東北電力宮城支店
「原子力
なるほどクイズ」係

①クイズの答え
②お名前(ふりがな)
③年齢
④性別
⑤ご職業
⑥郵便番号
⑦ご住所
⑧電話番号
⑨「東北電力からのお知らせ」に対するご感想
⑩東北電力に対するご意見、ご要望

より、そう、ちから。

東北電力からのお知らせ

本紙は女川原子力発電所が立地している女川町、石巻市と、隣接する登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町の皆さまに向けたコミュニケーション紙です。

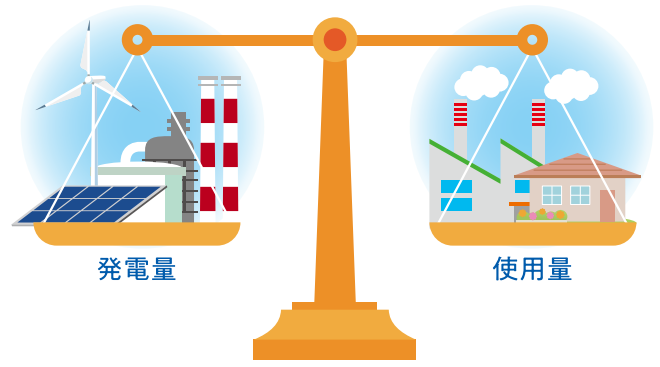
くらしのぬくもりを守る でんき。
おくり、とどける、そのために。



今、お使いいただいている電気は、今、つくっています。
良質で安定した電気をお届けすることが、私たちの使命です。

当社では、時々刻々と変化する電気の使用量に合わせて、24時間365日、絶えず発電量を調整しています。これは、現在の技術では電気を大量に貯めておくことが困難だからです。使用量と発電量のバランスが崩れると周波数や電圧が不安定になり、電気の「質」が低下します。瞬間的な「質」の低下であっても、ご家庭の電気製品が故障したり、精密機器の工場では完成した製品にばらつきがでるなどの

影響を及ぼすこともあります。また、多くの自然災害に直面する日本では、生活インフラが直接的な影響を受けることもあります。停電を防ぐことや、停電した場合に可能な限り早期に復旧することも当社の大切な役割の一つです。ご家庭での暮らしはもとより、技術力の高い日本のものづくり産業を支えるため良質な電気をお届けしてまいります。



バランスを保つことが必要

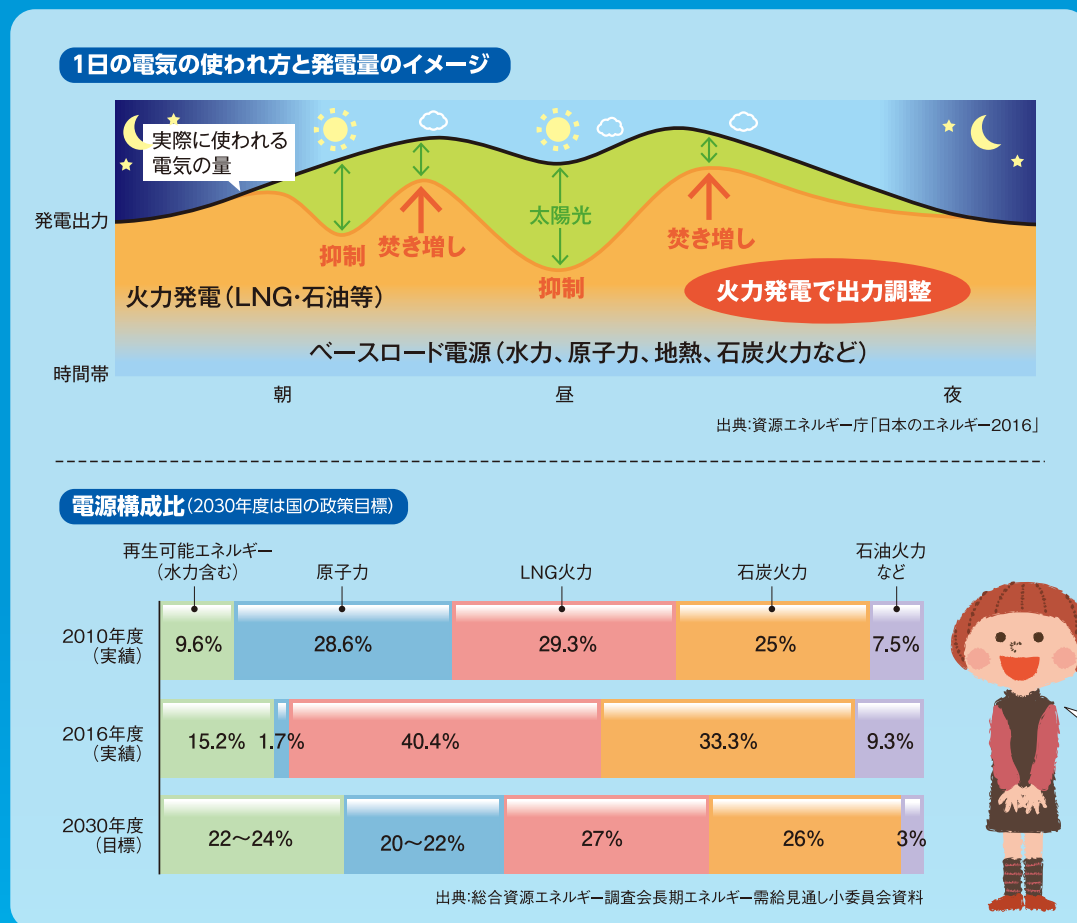
より、そう、ちから。
東北電力 宮城支店

お引越し・アンペア変更 ☎0120-175-266
停電・緊急時のお問い合わせ ☎0120-175-366
電気設備に関する問い合わせ ☎0120-175-377
その他のお問い合わせ ☎0120-175-466

※お電話がつながりにくい場合がございますので、あらかじめご了承ください。 ※お問い合わせの内容によっては、担当部署からの折り返しの電話により対応させていただきます。
(2018.12発行)

私たちのくらしのために 一緒に考えてみませんか？

難しいけれど、大切なエネルギーの選択



震災以降、発電量の8割が火力発電に

電気の使用量は季節や時間帯によって大きく変化します。そのため、季節や時間帯を問わず継続的に一定量を発電するベースロード電源(水力、原子力、地熱、石炭火力など)に火力発電(LNG、石油等)などを組み合わせ、電気の使用量に合せて発電量を調整し、良質で安定した電気をお届けしています。

東日本大震災以降、ベースロード電源の一つである原子力発電が停止し、それを補うために火力発電に大きく依存しています。再生可能エネルギーの普及が進んでいますが、現在、日本の発電量の構成比では火力発電が8割以上を占めています。

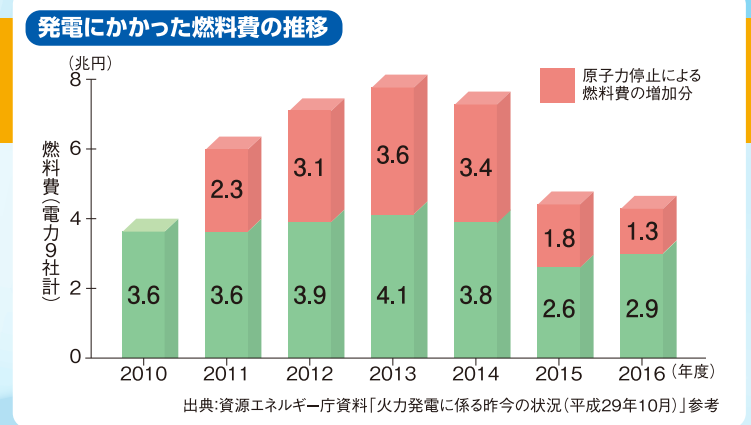
こうした状況は、火力発電所に予期せぬトラブルなどが起きた場合、良質で安定した電気をお届けできなくなる可能性があるなど様々な課題があります。



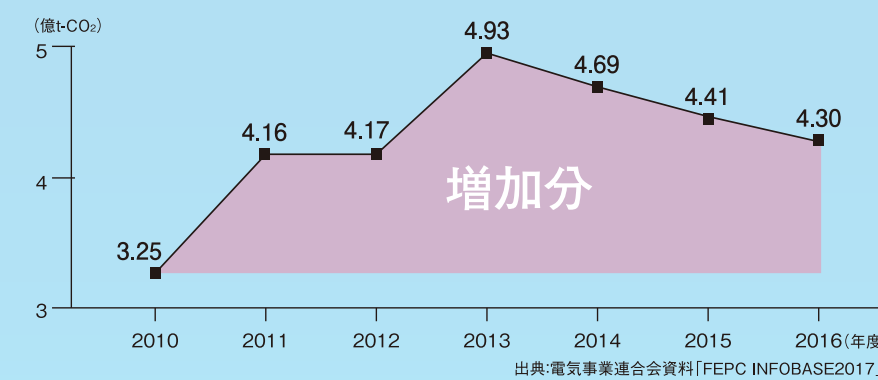
このまま続けば、家計も環境も心配

火力発電の高稼働状態が続き燃料費やCO₂(二酸化炭素)排出量が増加

日本は、火力発電の燃料となる石油、石炭、LNG(天然ガス)のほとんどを輸入に頼っています。震災以降、火力の発電量が増えたことにより燃料費は増加し、電気料金も上昇しました。原子力発電の停止に伴う火力発電の焚き増しによる2016年度の燃料費の増加は、約1.3兆円(推計値)、国民1人あたり約1万円の負担増となります。燃料費の増加分は、2011年度から2016年度までの累積で約15.5兆円に達したとされています。

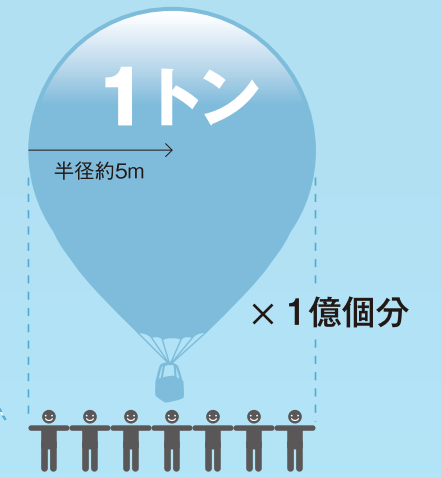


電気事業からのCO₂排出量(増加分)の推移



参考 1億トン分のCO₂は、半径約5mのバルーン1億個分の容積に相当します。

1トン分のバルーンは7人が両手を広げて並んだぐらいの大きさです。



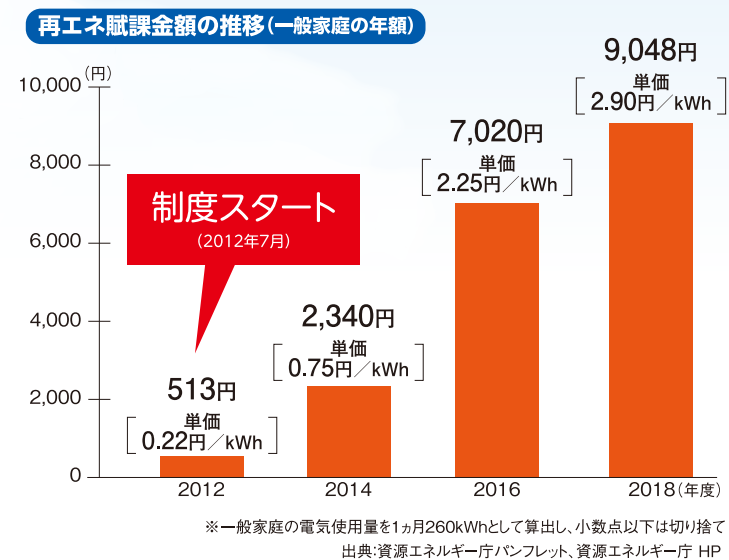
普及が進む再生可能エネルギー

電気を使うみんなをサポートしている

発電時にCO₂(二酸化炭素)を排出しない太陽光発電や風力発電などの再生可能エネルギーは、エネルギー資源の乏しい日本では、自然環境を活かした貴重な国産エネルギーとして期待されています。しかし、太陽光発電や風力発電は天気、時間帯に左右され発電量が不安定なことや、建設コストが高く、大量導入するためには、電気を送る送電網の整備などに追加の費用が発生するなど、解決すべき課題も残されています。

また、再生可能エネルギーが普及する一方で、私たちの費用負担が増加していることも事実です。発電コストが高い再生可能エネルギーの普及を支えるため、国の制度により、つくられた電気は一定の期間にわたり国が定めた固定価格で電力会社が買い取ります。その費用の一部は、すべての電気利用者が使用量に応じて「再生可能エネルギー発電促進賦課金」として毎月の電気料金と合わせて負担しています。再生可能エネルギーの導入を促進していくための制度ですが、この負担額は年々増加しており、同様の制度を導入したドイ

ツでは、一般家庭の負担額が年間30,000円近くになっている例もあります。



エネルギーもバランスが大切

原子力発電も含めたエネルギーミックスが必要です

「これさえあれば完璧」という発電方法は残念ながらありません。「安全確保」を大前提として「安定供給」「経済性」「環境適合」を同時に達成するため、さまざまなエネルギーをバランスよく組み合わせる「エネルギーミックス」が大切です。原子力発電はこの「エネルギーミックス」を担う電源の一つとして、「安全確保」を大前提にこれからも必要な電源であると考えます。



いつも、どんな時でも、良質で安定した電気をお届けするために、女川原子力発電所のさらなる安全性の向上に取り組んでまいります。